

【新
雲】



編集兼発行人 朝日町役場内 大菅達二 印刷所 高田印刷 定価一部六円 送料四円

昭和三十六年 新年祝賀名刺交換会の 開催案内

日時 一月一日午前十一時
場所 泊高等学校講堂

参加希望者は、来る十二月二十三日まで町内会、各事務所、官公庁等でおとりまとめの上、一人当金百円を添えて役場総務課へ申込んで下さい。

国民健康保険よりの お知らせ

朝日町の国民健康保険では、このたびは、炎、マツサージ会と被保険者の皆様が治療を受ける事の出来る協定を結びましたので、被保険者の皆様には明年一月一日より医師がはり、炎、マツサージの治療を必要と認める場合は、医師より証明が出ますから、その証明と受診証を差出し治療を受けると、国民健康保険より半額支払うことになりましたから、御了承下さい。

歳末たすけあい運動 について

寒い冬と共にあたたかい師走の月が参り年の瀬の寒い夜空に明日の日を案じ楽しい正月も貧しいが故に淋しく迎へる人達のために朝日町と朝日町社会福祉協議会の共催によって今年も再び歳末たすけあい運動の一環として各戸に愛の袋を配布して町民の深い御理解と同情を求め町内の貧しい人達に温いたすけあいの真心を贈る運動を十二月十日より二十日迄実施いたしますので町民各位の絶大なる協力をお願い申し上げます。

朝日町社会福祉協議会

農事教室

国民の栄養状態は年ごとに向上しているといわれながら、農村においてはまだまだ米食偏重とかビタミンの不足による高血圧、神経痛、寄生虫病、脚気、クル病、その他胃腸病等が多い。また自分では健康だと思っ

農村の健康と食生活について

て働いている人でも肩こり、腰痛、手足のシビレ、頭痛、ドウキ、息切れ、メマイ等を起しやすい、県下八万二千世帯の八〇%までがこの症状をもっているといわれている。これは農村の生活環境が大きな原因で第一に肉体的過労(重労働的作業や不自然な、くるしい姿勢)第二に栄養の不足(とくに白米の食べ過ぎからくる栄養素のバランス)第三に住居や仕事からくる冷え込み、第四に日常のしきたりや気がねからくる精神的緊張感等が重なりあって病気をひきおこしやすいのです。これを予防するには私達の食生活をも一度考えなおして見ましょう。

◇まず動物性蛋白の多い栄養を取る。農村は一般に食物が片寄りがちで都会にくらべ蛋白質中に動物性蛋白、脂肪、ビタミンの摂取量が非常に少なく、糖分だけがやたらに多い労働の激しい農繁期等は特にみそ汁、漬物、塩干物で御飯だけ腹一杯食べている、これでは貧血、脚気、カル病等の病気に罹りやすく、しかも体の抵抗力を弱め、結核や疫病等の伝染病の発生を招くほか農村に多い心臓、肝臓の疾病を悪化させるものになります。食事はなるべく魚肉、卵等の動物性蛋白を取るよう心がけ、又如の肉とも書かれている大豆も動物性蛋白に劣らない栄養素を含んでいるし、大豆は皆さんも御承知のように味噌、醤油、納豆、凍豆腐、黄粉、豆腐、もやし、大豆油等色々の製品が作られていますから、毎日の食事に取入れられるには一番栄養価があり安価な食品です。

◇次にビタミンの多く含んでいる食品を取る農村では今日のように豊作続きでは、白米ばかり食べているため農村には目だたてビタミンB1の欠乏症状が現われていますがこれもビタミン強化米強化ムギを白米に混ぜて白米を食べたり味噌を作る時にビタミンB1B2、カルシウムを強化したりしてビタミンの強化食品を食べれば一日に必要な量がだいた補給されます。ビタミンAは緑黄色野菜(ニンジン・カボチャ・ほうれん草・トマト)等の植物性食品を多く取る事も必要です、植物性食品では必要量三千単位はとれないから動物性食品(魚の肝臓、肝油、バター)からビタミンAを取るのが理想的です。

◇食塩を多く取らぬよう注意する。農家の人は食塩を多く取る傾向にあります。農村の食塩の摂取量は一日一九gにも及んでいます。これが過激な労働によつて脳出血、高血圧を多くする原因で特に中年老年層と高血圧や肝臓の悪い人は食塩の摂取量を制限する必要があります。これらの事に注意してこれからの農村の食生活改善に努めて下さい。

歳末特別貯蓄運動

期間 昭和35年 自11月25日
至12月31日

明るい家庭に貯蓄もひと役貯蓄で計画豊かなくらしくらしと貯蓄に家計簿を

郷土の成功者

玉水幹人氏郷里の小 中学校にピアノ寄贈

朝日町清水町出身の玉水幹人氏(在京)は少年時代泊小中学校を経て北海道大学を卒業、東大を経て三菱に入社し海外の同社の鉱山経営に従事、昭和二十六年日東鉱業社長、旭鉱山社長、大平商事会長に就任目下東北中部関東四国各地に鉱業会社を経営活躍中であるが最近郷土を訪問の際郷里の小中学校の施設設備の不



(写真)玉水幹人さん

完全を見られ今般泊小中学校へ各ピアノ一基を寄贈せられ去る二十二日在京の氏夫妻を招き盛大なピアノ披露音楽会が挙行せられた。尚最近映文社より出版せられた『男の一番』(今日財政界に活躍中の第一人者自伝集)に氏の過去における苦闘と波乱に満ちた生活記録が生々しく詳細に登載されている。

研究成果あがる 南保小学校

昨年来富山県研究学校に指定され学校体育の研究を続けていた南保小学校は、十一月二十四日研究成果の発表会を開いた。

当日は斯界の権威東京教育大学の高田典衛先生を講師に、県下の熱心な教職員約一五〇名が参集した。

午前は同校の研究主題であるボール運動の研究授業が二年三年四年六年生によって行われ、明るく健かなビッチビッチした活動が展開された。午後は研究授業を中心とした分科会、同校の研究成果をもとに全体会議及び講演が行われた。ボール運動は技能と人間関係が大きな要素で指導が難しくこれが系統的指導は全国的な課題で、林校長以下同校職員の充実した実証的研究は高く評価された。

特に日本全国を見ておられる高田先生から「南保小学校の実践研究は日本一である」との激賞をうけたことは心強い限りである。当校の研究成果は富山県小学校教育に大きく、貢献すると共に、中食時に紹介された八ミリ映画に見るように校下の人々の体育レクリエーション体育の生活化に発展し社会体育面にも地についた成果をあげた。

下山新若葉児童会 誕生

この夏から活動を続けていた下山新児童会はこんど若葉会と名づけ誕生した。会員は小中学生全員で構成し会費は月五円で六部会をもうけ活動することになった。

部の編成は体育部、文化部、整美部、連絡放送部、中学部、小学部となっている。会の指導のため相談役が三名いる。

談役は児童委員、小学校育成会部落委員、社会教育主事を子どもたちで選んだものである、またこの児童会を育成するため児童の保護者で育成会をつくった、今後の成果が期待されている。

試験は簡単な筆記試験(国語(作文を含む)数学、社会)口述試験及び身体検査を行い一日で終ります。

●待 遇

初任給月額約六、八〇〇円衣食支給、志願案内その他くわしいことは役場総務課へ問い合せ下さい。

休日をさいて 城山 清掃

とかく管理の目的とどかない所の施設等は破損されがちなものだが、城山頂上もその例により心ない人達にせっかく植樹した桜の木その他の施設は、毎年破損され、又風光明媚で絶好の憩いの場所も取残されたことみくずのため、善良な人達が大変迷惑をしている、たまたま夏季訓練中のボーイスカウト隊では、自分達で清掃補修しようと思いつき、十月初旬より休日をさいて、村口憲二、平野務、両君をリーダーとし年長隊員が奉仕をしている。

新刊案内

朝日町立中央図書館

- | | |
|------------|----------|
| 日本民謡の旅 | 高橋掬太郎 |
| 自由との契約(五部) | 五味川純平 |
| 小説国技館 | 尾崎七郎 |
| 足軽奉公 | 山本周五郎 |
| 女の顔 | 石坂洋次郎 |
| 悪文 | 岩淵太郎 |
| 赤い影法師 | 柴田錬三郎 |
| 俺は藤吉郎(十三) | 山口松太郎 |
| 私の耳は具の殻 | 小川いと子 |
| 人しれず微笑まん | 樺 光子 |
| 写真岬 旅と風土 | 大竹新助 |
| 働く人の健康 | 佐藤恒信 |
| 蒼き狼 | 井上靖 |
| あなたの住宅設計 | 山本学治 |
| 万葉集三 | 日本古典文学大系 |
| 告ぐるうた | 室生犀星 |
| 歴代詩選 | 中国古典文学全集 |

自衛官採用

防衛庁では本年度第四次として左記の要領により自衛官の募集をしております。

入隊については採用試験に合格してからきめればよいのです。今すぐ受験手続をして下さい。

●応募資格

年令十八才〜二十五才未満男子

●受付期間 場所

十一月十日から十一月十日まで、朝日町役場又は自衛隊富山地方連絡部

●試験



(写真 若葉会児童の奉仕活動)

本年度最後の機会

昭和三十六年

朝日町成人者名簿

(名簿にもれたお方は一月五日までに)
教育委員会に御申出下さい

◆大家地区	坂口 淳一 長能 広子 伊藤 智子 吉野 勉 長能 美保子 長能 美恵子 杉本 宏一 大久保 浩治 大久保 伊長 井口 一郎 井口 工塚 本 久雄 石橋 多美子 沢崎 立身 石橋 いとゑ 池田 勇 柳沢 季子 堀一 敏枝 池田 靖夫 堂用 茂 木下 恵子 川瀬 由夫 藤田 康弘 藤田 烈 林 なつみ 前川 勇 林 英子 藤井 真喜子 小川 由紀子 上野 謙有 森川 多津子 鍋谷 喜美子 由井 栄子 岡田 美和子 岡田 光子 藤田 紀昭 吉田 栄子 藤田 紀志雄 沢田 輝子 酒井 好夫 金井 久子 古沢 早苗 清水 隆夫 松田 一二三 高田 正憲 土用 盛一 西島 好子 西島 和子 野村 忠松 田 正雄 広沢 重子 吉野 富夫 高松 千鶴子 国友 君子 川端 操 川端 信夫 ◆野中地区	藤沢 幸正 山岡 昭二 西田 正憲 下登 美子 森岡 かや乃 小川 慶二 小川 義盛 右井 一子 藤岡 繁松 清水 正雄 清水 俊治 菅井 輝子 森岡 澄子 ◆南保地区	中島 英輔 谷口 澄 末上 千鶴子 根建 多美子	根建 敬子 福平 信行 福平 重教 広川 育子 水島 ヒロミ ◆宮崎地区	河内 和枝 加藤 邦男 中谷 紀男 水島 義孝 宮川 喜美子 岩谷 堅一 竹谷 正子 九里 守慶 嘉義 明子 佐田 紀明 加藤 弘司 前川 昇 水島 義数 水島 禎子 水島 里美 水島 勝久 扇谷 哲雄 野田 恭仁子 水島 ヤエ子 扇谷 和暢 前川 博 扇谷 俊枝 河内 春男 竹谷 満夫 水島 喜代治 水島 善照 加護 夏江 佐田 洋子 扇谷 忠明 水島 正義 佐田 靖江 岩谷 美生子 波間 紀子 ◆笹川地区	折谷 忠 長井 恵久子 折谷 紀子 長井 升江 山田 操 折谷 晴美 堀内 都和子 竹内 みより 深松 誠 勝田 節子 長井 薫 折谷 かほる 深松 博幸 長井 清則 折谷 雅美 折谷 元三 折谷 隆三 折谷 和歌子 長井 良孝 折谷 勇 折谷 妙子 折谷 賢雄 竹内 キヨ枝 竹内 朝夫 長井 重男 ◆五ヶ庄地区	広川 健之 高島 輝子 田中 節子 田中 寛治 鍛冶 博 大島 百合子 沢田 公明 近藤 辰敏 山手 邦男 近藤 紀子 河内 京子 南茂 鏡子 高田 美紀 南茂 桂子 南茂 俊一 南茂 桂子 勝田 君子 西田 岩夫 吉井 博志 建部 和子 永井 藤子 西田 親美 秋山 安水 野 勝政 沢田 千代美 沢田 幸子 草山 あけみ 岡島 智子 佐渡 勝彦 岡島 彦勝 広田 勝枝 岡島 始 窪田 俊夫 浜田 栄 吉江 民子 篠田 栄 篠田 繁正 追分 悠紀夫 吉江 守照 立野 繁 浜川 秀子 広幡 信昌 広幡 玲子 南茂 章 ◆山崎地区	大蔵 清正 仙名 和男 長津 敦子 青島 末次 仙名 利明 大蔵 民子 長津 春夫 長津 時枝 長津 孝司 花房 時夫 長津 邦雄 谷口 恵子 谷 幸男 蓬沢 さの子 花房 義則 山田 安治 水野 敦子 秀永 弘子 蓬沢 成子 安達 一正 秀永 成子 安達 典子 水野 紀子 水野 義隆 安達 シカ子 安達 義隆 谷口 百合子 安達 富子 安達 敏雄 谷口 美和子 名古屋 芳枝 黒崎 邦子 安達 健二 沢田 恵美子 久我 口友 友友 慶宏 久我 初枝 真部 富子 真部 初枝 真部 富子 河端 ひさ子 久保田 正行 久保田 竜男 九里 信夫 九里 博 小山 栄子 秋山 利順 永口 純雄 水野 林一 大井 英政 七沢 マサ子 水野 明子 山口 友子 辻栄 修 道下 善曉 佐藤 明子 愛場 敦子 出口 すみ子 初田 隆 清水 昇 本田 郁子 江端 美和子 野口 潔 野村 栄子 鹿熊 安広 中島 弘文 鹿熊 桂子 鹿熊 スミ子 森井 昇 中島 正喜 渡辺 勝栄 ◆泊一區	伊東 登志美 藤井 哲士 西島 光枝 長野 洋子 坂東 紀男 島端 清志 細川 紀子 藤沢 康夫 山田 よしゑ 坂東 雅典 水島 理之 松下 克彦 越坂 将子 宮崎 紀代子 小坂 士郎 福平 正勝 島田 喜美子 大平 忠 藤林 ちゑ子 坂倉 正義 平野 嘉子 大村 稔 泉 靖夫 間部 文紀 川上 紀子 長原 玉江 榎本 光男 高田 好美 山田 幸子 水野 啓子 福地 妙子 川上 顕治郎 泉 政二 泉 桂子 古市 利夫 武田 忠子 細川 惇子 氷見 忠一 鈴木 紀代子 橋本 敏二 岩城 郁子 岩城 紀男 山田 金一郎 寺松 寿 大江 勢津子 今西 伊都子 丸岡 小夜子 北谿 紀子 ◆泊二區	草野 隆子 殿村 晴美 新保 輝美 隆草 弘子 田中 敦夫 山崎 信好 殿村 吉紀 岡 辰江 川上 明 酒井 世津子 田畑 一郎 魚津 紀美子 菊地 正幸 近江 順治 中村 寛 富田 なほみ 芦田 門平 梅沢 絹子 荒尾 紀子 古市 照子 高松 龍一 大平 玲子 脇山 輝子 尾崎 孝一 大平 与惣治 藤波 邦子 舟本 明子 赤川 千恵子 大平 桂子 大和 ミエ子 梅沢 登志美 土井 一男 米田 猛 岡本 今子 岡本 昭二 脇山 明美 窪田 幸子 下沢 れい 中島 弘子 中居 敏子 石黒 千恵子 坂東 茂 玉水 雪子 ◆泊三區	高松 英輔 館 ナツ子 池原 繁登 大和 育子 吉江 徳久 長井 雄二 伊藤 礼子 野田 宏子 山崎 郁子 横谷 笑美子 椿 悦子 館 勝征 平柳 俊子 大橋 美規子 小杉 昌幸 古江 徳久 草野 紀久 村田 清 本岡 啄二 館 静枝 大村 雪子 大村 久美子 加賀 恵美 笹川 君子 本村 紀一 酒井 幸子 石瀬 寛治 石 紀己男 越間 美和子 横谷 一雄 村上 賢太郎 牧田 嘉矩 水島 若菜子 水野 富美子 坂東 美津子 上沢 昭二 柳沢 祥子 坂藤 時男 中陣 国夫 若林 豊一 越間 紀夫 平田 友成 魚津 孝竹 中 栄子 柳下 光雄 大平 勉 椿 ふき子 鳥越 アヤ子 坂上 トシ 長井 恵久子 大田 たけ子 永山 幸子 中野 靖子 吉田 喬昭 田島 隆子 河村 美智子 黒坂 春枝 平坂 秋雄 平野 広子 柳下 幸子 ☆☆☆☆
-------	--	---	-----------------------------	---	---	--	--	--	---	---	--

ねずみの駆除月間
をむかえて

県下一斉ねずみ駆除運動が第一期として十一月十五日から十二月十五日までの一ヶ月間に亘り実施され、その要綱は回覧を以て、お知らせ致しました。

ねずみの駆除方法は既に御承知のことと思いますが、組織的に計画的に且つ部落一斉に実施する事に依り、その根絶はきわめて容易である事が幾多の実験に依り実施されています。今、期間はねずみ駆除の好期であり、ねずみと宝くじの引換えに依る一挙二得のこの期間を逸せず、ねずみ退治に力を盡しましょう。

次に駆除運動が始まって以来十日間(十一月二十五日現在)の地区別、個人別の捕かく数を集計して見ました所次の様な数字になりました。

一、地区別の部	二、個人の部
境川 一二五	宮崎 五九
五ヶ庄 四二三	大家庄 七七四
南保 二二二	山崎 四六六
合計	三、三七一

境、宮崎、笹川地区は不明	個人別の部
一、地区別の部	二、個人の部
境川 一二五	宮崎 五九
五ヶ庄 四二三	大家庄 七七四
南保 二二二	山崎 四六六
合計	三、三七一

第七号様式(別紙二)

財政再建年次総合計画昭和34年度実施状況

歳入

富山県朝日町

(単位千円)

区 分	計 画 額		決 算				比 較 増 減 額		備 考	
	歳入額	うち一般財 源使用可能 額	当 該 年 度 額	翌年度繰越額	計		歳入額	うち一般財 源使用可能 額		
			歳入額 うち一般財源 使用可能額	歳入額 うち一般財源 使用可能額	歳入額 うち一般財源 使用可能額					
1 町 普 通 年 度 税 分	73.369	68.684	73.671	69.605			73.671	69.605	302	921
① 普 通 税	72.749	68.064	73.051	68.985			73.051	68.985	302	921
イ 法 定 外 的 増 収	68.064	68.064	68.985	68.985			68.985	68.985	921	921
ロ 法 定 外 的 増 収	4685		4.066				4.066		△ 619	
② 財 政 再 建 過 渡 的 増 収	620	620	620	620			620	620		
イ 法 定 外 的 増 収	620	620	620	620			620	620		
2 地 方 交 付 税 分	24.803	24.803	24.867	24.867			24.867	24.867	64	64
① 普 通 交 付 税	21.603	21.603	21.603	21.603			21.603	21.603		
② 特 別 交 付 税	3.200	3.200	3.264	3.264			3.264	3.264	64	64
3 地 方 該 当 税 入	4	4							△ 4	△ 4
4 財 産 收 入	1.360		1.700				1.700		340	
5 使 用 料 金	3.484		3.553				3.553		69	
6 ① 使 手 庫 支 出 事 業 金	2.503		2.527				2.527		24	
② 普 通 支 出 事 業 金	981		1.026				1.026		45	
7 ① 普 通 支 出 事 業 金	16.434		15.363				15.363		△ 1.071	
② 普 通 支 出 事 業 金	1.893		1.882				1.882		△ 11	
③ 普 通 支 出 事 業 金	3.188		3.232				3.232		44	
④ 普 通 支 出 事 業 金	3.801		3.205				3.205		△ 596	
8 ① 普 通 支 出 事 業 金	7.552		7.044				7.044		△ 508	
② 普 通 支 出 事 業 金	6.129		5.920				5.920		△ 209	
③ 普 通 支 出 事 業 金	3.054		2.854				2.854		△ 200	
④ 普 通 支 出 事 業 金	130		127				127		△ 3	
9 ① 普 通 支 出 事 業 金	2.945		2.939				2.939		△ 6	
② 普 通 支 出 事 業 金	5.467		4.808				4.808		△ 659	
10 寄 附 金										
11 繰 上 金	3.282	3.282	3.282	3.282			3.282	3.282		
12 繰 上 金	972	665	1.367	506			1.367	506	395	△ 159
13 繰 上 金	2.000		2.000				2.000			
① 財 政 再 建 債 金										
② 財 政 再 建 債 金	2.000		2.000				2.000			
歳 入 合 計	137.304	97.438	136.531	98.260			136.531	98.260	△ 773	822

歳出

区 分	計 画 額		決 算				比 較 増 減 額		備 考	
	歳出額	うち一般財 源充当額	当 該 年 度 額		翌 年 度 繰 越 額		計			
			歳出額	うち一般財 源充当額	歳出額	うち一般財 源充当額	歳出額	うち一般財 源充当額		
1 消 費 的 経 費	72.432	55.855	71.672	55.647			71.672	55.647	△ 760	△ 208
① 人 基 本 的 経 費	31.489	26.957	31.380	27.588			31.380	27.588	△ 109	631
イ 基 本 的 経 費	19.296	16.184	17.893	14.819			17.893	14.819	△ 1.403	△ 1.365
ロ ハ ニ ホ	6.194	4.881	5.810	5.370			5.810	5.370	△ 384	489
② 物 資 的 経 費	913	913	929	929			929	929	16	16
③ 投 資 的 経 費	38	38	38	38			38	38		
④ 普 通 建 設 事 業 金	5.048	4.941	6.710	6.432			6.710	6.432	1.662	1.491
① 普 通 建 設 事 業 金	25.149	19.186	24.921	18.474			24.921	18.474	△ 228	△ 712
② 普 通 建 設 事 業 金	15.794	9.712	15.371	9.585			15.371	9.585	△ 423	△ 127
③ 普 通 建 設 事 業 金	48.169	26.167	46.332	25.373			46.332	25.373	△ 1.837	△ 794
④ 普 通 建 設 事 業 金	34.736	21.579	33.534	20.755			33.534	20.755	△ 1.202	△ 824
① 普 通 建 設 事 業 金	17.253	7.511	16.682	7.270			16.682	7.270	△ 571	△ 241
② 普 通 建 設 事 業 金	17.483	14.068	16.852	13.485			16.852	13.485	△ 631	△ 583
③ 普 通 建 設 事 業 金	6.333	1.419	6.376	1.644			6.376	1.644	△ 43	△ 225
④ 普 通 建 設 事 業 金	4.983	451	4.963	612			4.963	612	△ 20	161
① 普 通 建 設 事 業 金	1.350	968	1.413	1.032			1.413	1.032	63	64
② 普 通 建 設 事 業 金	7.100	3.169	6.422	2.974			6.422	2.974	△ 678	△ 195
③ 普 通 建 設 事 業 金	6.850	2.919	6.204	2.756			6.204	2.756	△ 646	△ 163
④ 普 通 建 設 事 業 金	250	250	218	218			218	218	△ 32	△ 32
3 公 政 再 建 債 元 利 償 還 金	16.703	15.416	16.648	15.361			16.648	15.361	△ 55	△ 55
① 公 政 再 建 債 元 利 償 還 金	8.843	7.556	8.843	7.556			8.843	7.556		
② 公 政 再 建 債 元 利 償 還 金	7.860	7.860	7.805	7.805			7.805	7.805	△ 55	△ 55
4 繰 上 充 用 金										
5 前 年 度 繰 上 充 用 金										
歳 出 合 計	137.304	97.438	134.652	96.381			134.652	96.381	△ 2.652	△ 1.057
歳入歳出差引残額			1.879	1.879			1.879	1.879		